

どれも **宝** だから
みんなが主役の町になる!

自然の恵みも、人のまなざしも、日々の営みも…
その一つひとつが宝だから。
誰もが輝ける町をこれからも創っていく。



紀**宝**町
だ**宝**から

これが宝 だから 日常が愛おしい
それが宝 だから 誰かに語りたくなる
あれが宝 だから 未来が楽しみになる

町制施行20周年記念 三重県 紀宝町 町勢要覧

発行年月 令和8(2026)年1月

発行 三重県紀宝町 〒519-5701 三重県南牟婁郡紀宝町鶴殿324番地

TEL 0735-33-0333 FAX 0735-32-3061 URL <https://www.town.kiho.lg.jp>



紀宝町
ホームページ



紀宝町公式LINE
@kihotown



YouTube
紀の宝チャンネル

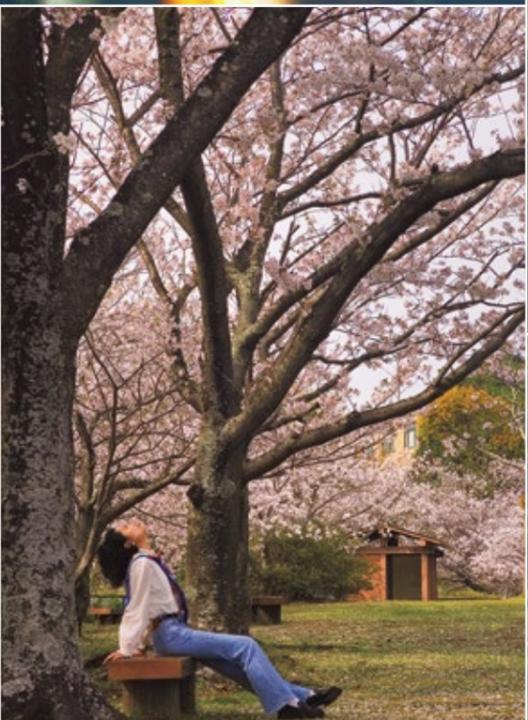
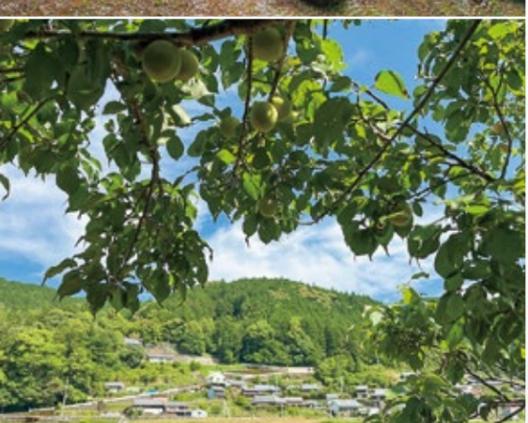


移住・定住
ポータルサイト



令和8(2026)年
町制施行20周年記念

三重県 紀宝町 町勢要覧



そのすべてが宝だから

紡がれてきた人の営み、育まれてきた自然の恵み、
 静かに息づく文化の記憶。
 暮らしに宿る誇り、心を潤す風景、
 そして、未来へとつながる希望。
 紀宝町が歩んできた20年の軌跡は、
 一つひとつが、かけがえのない「宝」であり、
 この町を形づくってきた、大切な輝きです。
 今、あらためて紀宝町の魅力に
 そっと目を向けてみませんか。

Contents

- 04 Kiho 20年の軌跡
- 14 町民インタビュー／まちの推しランキング
- 16 総合計画 めざす姿
 - ①自然と共生し、安全・安心で快適に暮らせるまちづくり
 - ②ともに支え合う、やさしさあふれるまちづくり
 - ③賑わいと活力あふれる産業・交流のまちづくり
 - ④いつでもどこでも学べる教養豊かなまちづくり
 - ⑤住民と行政の協働によるまちづくり
- 26 キラリ輝くまちの魅力 文化財／特産品／イベント
- 28 町議会／交流自治体
- 30 マップ／町長あいさつ



町章について
 紀宝の一文字「宝」をモチーフに、海・山・川がもたらす恵みの豊かさをイメージしつつ、躍動感溢れる曲線のリズムで、人と大自然の共鳴を表しています。力強く前進し未来に躍動しようとする紀宝町の活力を象徴しています。

Kiho

20年の軌跡

平成18年

平成21年



新しい歴史が
ここから
始まった!

1月 紀宝町、鶺鴒村が合併し新「紀宝町」誕生

1月10日の開庁式には関係者や職員など約150人が出席。新「紀宝町」の飛躍・発展を願い、新しい町の船出を祝いました。町の将来像として「海・山・川の恵みに抱かれ、ともに輝き創造するまち」を掲げ、新たなまちづくり、地域づくりへの取り組みが始まりました。

●西田 健氏
初代町長に就任

平成18年

- 紀宝町地域包括支援センターを設置
- 戸籍・住民・印鑑登録などの証明書発行業務を午後7時まで延長開始



5月 新「紀宝町」誕生記念式典をまなびの郷で開催

式典には関係者218人が参列し、新「紀宝町」の発展にむけて式辞や祝辞が述べられました。式典は矢淵中学校吹奏楽部の演奏で始まり、熊野水軍子供太鼓による演奏や鶺鴒ばやし、紀宝ふるさと音頭などが披露され、新町の誕生を祝いました。

●「非核平和の町」を宣言

- 紀宝町給食センター増改築工事が完了(神内)
- 相野谷小学校校舎耐震補強工事が完了

11月 井田公民館、分庁舎を子どもの遊び場に開放

●井田公民館、分庁舎を子どもの遊び場に開放

10月

●諸手船が三重県指定文化財(有形民俗文化財)に指定

熊野速玉大社の例大祭である御船祭で使用される「諸手船」。神輿を載せた船を曳航する重要な役割を担っています。古式を保った船型は、この地方の鯨船の祖形をなし、熊野水軍の面影が残るともいわれています。船大工の高度な技術が光る価値あるものとして10月27日に県指定の有形民俗文化財に指定されました。



●学童保育「きほっこ」を開設

共働きなどの事情で、家庭が留守になる小学校1~3年生の児童が安全・安心に遊べる場所として、町福祉センターで学童保育「きほっこ」が開設されました。開設当時は21人の児童が通所し、スタッフは1日4人体制で子どもたちの保育に取り組みました。



子どもも保護者も
安心できる
環境が整いました

平成19年

1月 第1回紀宝町議会議員選挙で15人が当選

●第1回紀宝町議会議員選挙で15人が当選

3月 新築住宅の固定資産税を軽減する条例を制定

●新築住宅の固定資産税を軽減する条例を制定

●「第1次紀宝町総合計画」を策定

合併時に旧町村で合意された「新町まちづくり計画(新町建設計画)」を基本に策定。まちの将来像と基本理念、まちづくり基本方針、4つのまちづくり基本目標で、みんなが主役のまちづくりをめざし、10年間の町政運営の指針を示しました。

7月 相野谷川排水機場が完成(鮎田)

●相野谷川排水機場が完成(鮎田)

平成20年

3月 リサイクルセンターが完成(井内)

循環型社会の構築に向けての取り組み拠点として、井内工業団地内に完成。各種コンベアや空き缶プレス機、ホイス式クレーンを主な機械設備として備え、建物外には住民の皆さんが憩いの場として活用できる多目的広場を設置しました。



1月

●町の花に「カンラン」、「スイセン」、町の木に「ウバメガシ」を指定

紀宝町を象徴し、親しみをもてる「町の花」「町の木」を公募で決定。「紀宝町の花・木制定委員会」の審査・選考を経て、「町の花」には143通の応募の中から「カンラン」と「スイセン」が、「町の木」には126通の応募の中から「ウバメガシ」に決定しました。

平成20年

3月

●リサイクルセンターが完成(井内)

循環型社会の構築に向けての取り組み拠点として、井内工業団地内に完成。各種コンベアや空き缶プレス機、ホイス式クレーンを主な機械設備として備え、建物外には住民の皆さんが憩いの場として活用できる多目的広場を設置しました。

4月

●町営浄化槽整備推進事業を開始

●新相野谷診療所で診療開始(井内)



地域医療の拠点として、新相野谷診療所が4月7日から診療をスタートしました。同診療所は診察診療室のほか、レントゲン室や内視鏡室を備えています。

9月

●本庁舎増築工事が完了(鶺鴒)

●「人権尊重の町」を宣言「紀宝町人権基本方針」を策定

●J.R鶺鴒駅前駐輪場が完成(約130台収容可能)

●移動支所を開設

●町内の3郵便局(相野谷、御船、紀伊井田)で住民票などの発行を開始

5月

●児童デイサービス事業「通園めだか」を開設(鮎田)

11月

●矢淵中学校校舎の耐震補強工事が完了(鶺鴒)

12月

●「交通安全の町」「暴力追放の町」を宣言

妊娠中から
就学前まで、
切れ目のない子育て
支援を実施



2009
平成21年

2月

●消防団第4分団消防車庫・倉庫整備が完了(鶺鴒)

3月

●鶺鴒地域交流センターが完成

鶺鴒地区の「気軽に使える区民の集いの場」という要望に町が応えたもので、4月6日に完成式典を行いました。大会議室や和室、料理実習室などを完備し、地区や各団体の交流、情報交換の拠点として利用されています。

●土地利用一体型水防災事業(相野谷川輪中堤他)が完了

●戸籍電子化システム稼働開始

8月

●後期高齢者健康診査の無料化を開始

4月

●全国瞬時警報システム(J-ALERT)の運用を開始

●「紀宝町子育て支援センター」を開設(神内)

子どもの遊び場や親同士の交流づくりなど、地域全体で子育てを支援する拠点として、保健センター内に開設。子育てに関する悩みなどの相談窓口や情報発信などを通して子育て家庭を応援し、楽しく子育てができる環境づくりに取り組んでいます。

Kiho 20年の軌跡

平成22年

平成25年



●新相野谷トンネルが開通

桐原地区と阪松原地区をつなぐ県道紀宝川瀬線のバイパス区間800mが開通。同バイパスの新相野谷トンネルで開通式を行いました。地元の小学生を先頭に、開通式出席者全員で新トンネルを歩く「通り初め」も行いました。

9月

合併5周年の
節目と躍進を
祝福しました



●紀宝町合併5周年記念式典を まなびの郷で開催

近隣市町村の関係者など約250人が出席。地域福祉のために貢献した企業3社や、町行政に功績のあった146人と8団体に表彰状を贈りました。

1月

- 紀宝町指定文化財に指定
 - ・成川屋佐兵衛の墓(史跡)
 - ・横手地蔵尊(史跡)
 - ・徳本上人名号碑と恵比寿像と灯籠(史跡)
 - ・平尾井踊り(無形民俗文化財)
 - ・飛雪の滝(名勝)

- 生活・介護支援
サポーター
「てまりの会」が発足

3月

- 第2期
西田町政が始動

2月

平成22年

4月

- 子ども医療費助成
対象者を12歳年度末
(小学6年生)まで拡充

- 飯盛保育所建替工事が完了(成川)



- 町内で鳥インフル
エンザが発生

2月

- 東日本大震災
が発生

3月

- 移動支所図書
貸出サービス
事業を開始

5月

●井田保育所を新築・移転

建設以来40年以上親しまれてきた園舎が、地元木材をふんだんに使った木造2階建ての新園舎に生まれ変わりました。旧園舎より広く、木の香りが漂う明るく開放的な間取りが特徴です。特別養護老人ホーム「亀楽苑」が隣接しており、多世代交流ができる環境も整いました。



7月

●紀南特別養護老人ホーム 「亀楽苑」が完成(井田)



- 高齢者のたまり場を
兼ねた福祉の店
「アプローチ」が
オープン(鶯殿)

11月

10月

- 矢淵中学校
体育館の耐震補強
工事が完了(鶯殿)

3月

●紀の宝みなと市が始まる(鶯殿港)

地域活性化と地産地消の推進を目的に、現在では毎月第2土曜に開催している「紀の宝みなと市」。記念すべき第1回は12月15日に行われました。鶯殿港で水揚げされた魚介類や町内で収穫された農産物、お弁当などが販売され、町内外から多くの人々が来場し、にぎわいました。

- 紀宝町平成23年台風第12号災害
復旧・復興計画を策定
- 成川小学校の新校舎が完成

平成24年

5月

- 「広報きほう」が全国
広報コンクール広報
紙部門(町村の部)
で特選(総務大臣
賞)を受賞

4月

- 井内工業団地に
「特定非営利活動
法人てとて」を誘致

平成25年

町の特産品のPR、
にぎわいづくりに
つながっています!



- ファミリーサポート
センターを開設(神内)

6月



●復興支援イベント「元気で!紀宝町」を 相野谷小学校で開催

台風第12号の被害を受け、風評被害の払拭と、被災された住民の方々の復興への機運を高めるためのイベントとして開催。相野谷保育所の園児たちのダンスからスタートし、ソーラン節や合唱のほか多彩な催しを企画し、約3,000人の来場があり、大いに盛り上がりました。

- 悪質商法の被害から高齢者を守る
「高齢者地域見守り隊」が発足

平成25年

2月

- 消防団第3分団
桐原班消防車庫が完成



●復興を祝う記念イベント 「元気で!紀宝町川丈感謝まつり」を 浅里健康増進広場で開催

平成23年の台風第12号で被災した紀宝町浅里地区の飛雪の滝キャンプ場などの復興を記念し、支援者への感謝を込めたイベントを開催。約2,000人が集まり、地元特産品の販売やステージ、記念植樹、餅まきなどを行い、大いに盛り上がりました。

- 熊野川河口大橋を含む一般国道42号
「新宮紀宝道路」の新規事業化が決定

- 「第1次紀宝町総合計画」
後期基本計画を策定
- 津本防災センターが完成(大里)

地域振興から
防災対策等に
大きく役立っ
ています



●紀宝バイパスが開通

紀宝バイパスの未開通区間1.6kmが開通し、全線開通しました。渋滞緩和をはじめ、地域振興や防災対策、救急医療サービスの向上など、さまざまな効果のある道として機能しています。全線開通に先立ち、紀宝トンネルでは記念イベントとして「マラソン&ウォーク」を実施しました。

6月

- 浅里地区営農飲雑用水
施設が完成



●石川県中能登町と 姉妹町提携協定を締結

平成24年から、両町長の相互訪問をはじめ、商工観光、教育・福祉の分野でも活発な交流を続けてきた石川県中能登町と紀宝町。姉妹町提携の協定を締結し、調印式をまなびの郷で行いました。今後も相互協力しながら、両町の発展につながるまちづくりをめざします。

- 消防団第2分団高岡班消防車庫が完成
- 高岡防災センターが完成
- 防災拠点施設
(津波避難ビル)
が完成(鶯殿)



Kiho 20年の軌跡

平成26年

平成29年



●災害に備え、飲料水兼用耐震性貯水タンクを6基設置

まなびの郷以外のタンクの側面には、各地区の小学生が自由に描いた絵がペイントされ、海中を泳ぐ魚やウミガメの様子、各地区の名所などを表現しています。



●深田運動場の改修工事が完了(大里)

子ども医療費助成対象者を18歳年度末(高校3年生)まで拡充

熊野古道世界遺産登録10周年記念イベントを開催

●「紀宝戦隊カメレンジャー」が町公式キャラクターに就任



●コンビニ収納サービスを開始(水道料)

●「広報きほう」が全国広報コンクール広報紙部門(町村の部)で特選および内閣総理大臣賞を受賞

災害に強いまちに
一歩前進!



●全国初!台風等風水害に備えた事前防災行動計画(タイムライン)を策定

事前に予測できる台風や前線などによる風水害から住民の命を守ることを目的に、地域の防災関係機関が「いつ(どのタイミングで)」「何を(どのような防災行動を)」「誰が(各主体の役割として)」の3つの要素を協議し、防災計画として整理した「事前防災行動計画(タイムライン)」を策定しました。

●津地方気象台、紀勢国道事務所、紀南河川国道事務所と台風等風水害に備えた事前防災行動計画(タイムライン)の連携に関する協定を締結

●飯盛保育所で0歳児保育を開始

●町民防災会議を設立

●深田スポーツ交流センターが完成(大里)

深田運動場に隣接し、遊戯場やシャワールームなどを整備しています。スポーツ合宿などの利用に適するほか、土日の日中には無料開放され、年齢問わず遊び場としても利用できます。



●井田ほうき踊り(無形民俗文化財)、井田観音像(有形民俗文化財)を紀宝町指定文化財に指定

●熊野川河口大橋を含む一般国道42号「新宮紀宝道路」の事業着手式(道路中心杭打設式)をまなびの郷で開催



●小野橋架替工事が完了(桐原)

●成川小学校・神内小学校非構造部材耐震改修工事が完了

●成川防災備蓄倉庫が完成

●鶺鴒老人憩いの家「讃寿荘」建替工事が完了

●波静橋架替工事が完了(鶺鴒)

●熊野川左岸鶺鴒高潮堤が完成

●井内工業団地に「パナソニックエコソリューションズ電材三重株式会社」を誘致

●株式会社アクティオと「災害時におけるレンタル資機材の提供に関する協定」を締結

一人の挑戦が
みんなの勇気に!



第100回日本陸上競技選手権大会で大会新記録を樹立し、リオ五輪代表に決定

●まなびの郷の太陽光発電設備等導入工事が完了

●消防団第2分団川丈班消防車が完成(浅里)

●紀宝町制施行10周年記念式典を開催

●三重県行政書士会と「災害時における応急対策業務の協力に関する協定」を締結

●うどの幼稚園で預かり保育を開始

●紀南薬剤師会と「災害時の医薬品等の調達に関する協定」を締結

●浅里地区・大里地区タイムライン(風水害)を策定

●全小中学校区に「学校運営協議会」を設置

●浅里食品加工場(なれ寿し加工場)が完成

●鮎田地区タイムライン(風水害)を策定

提供:紀南新聞社

8月

●高見澤安珠選手がリオデジャネイロオリンピックに出場(女子3,000m障害物)

紀宝町出身の高見澤選手がリオデジャネイロオリンピックに出場し、世界の舞台上で力強い走りを見せ、多くの町民に勇気と感動を与えてくれました。

●太陽光発電設備等導入工事が完了(鶺鴒小学校・井田小学校・相野谷中学校)

9月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

●三重大学と「連携・協力に関する協定」を締結

●子育て世代包括支援センターを健康づくり推進課内に開設

●高知県大豊町、熊本県球磨村と水害タイムライン運用自治体連携協定を締結

●紀宝町教育大綱を策定

●「第2次紀宝町総合計画」を策定

●井田小学校・相野谷小学校の非構造部材耐震改修工事が完了

●神内小学校の太陽光発電設備等導入工事が完了

●川丈班消防車庫太陽光発電設備等の導入工事が完了(浅里)

●紀南環境衛生施設事務組合で新汚泥再生処理センターが完成

●地方自治法施行70周年記念式典において紀宝町が総務大臣表彰を受賞

●一般国道42号「新宮紀宝道路」起工式を新宮市立総合体育館で開催

国土交通省、和歌山・三重の両県知事、新宮市長、紀宝町長のほか、一般参加者を含め約450名が出席。式典では、主催者あいさつや来賓祝辞などが行われたあと、鉄入れと万歳三唱が行われ、工事の安全と今後のさらなる事業進捗、早期完成を祈念しました。

●防災フォーラムin紀宝をまなびの郷で開催

●浅里食品加工場(なれ寿し加工場)が完成

●鮎田地区タイムライン(風水害)を策定

●浅里食品加工場(なれ寿し加工場)が完成

●鮎田地区タイムライン(風水害)を策定

●鮎田地区タイムライン(風水害)を策定

●鮎田地区タイムライン(風水害)を策定

●鮎田地区タイムライン(風水害)を策定

くらしを広げる
未来への
懸け橋に!



7月

●町内郵便局・熊野郵便局と「災害発生時における紀宝町と紀宝町内郵便局の協力に関する協定」「地域における協力に関する協定」を締結

●相野谷中学校の非構造部材耐震改修工事が完了

●高知県大豊町、熊本県球磨村と水害タイムライン運用自治体連携協定を締結

●紀宝町教育大綱を策定

●「第2次紀宝町総合計画」を策定

●井田小学校・相野谷小学校の非構造部材耐震改修工事が完了

●神内小学校の太陽光発電設備等導入工事が完了

●川丈班消防車庫太陽光発電設備等の導入工事が完了(浅里)

●紀南環境衛生施設事務組合で新汚泥再生処理センターが完成

●地方自治法施行70周年記念式典において紀宝町が総務大臣表彰を受賞

●一般国道42号「新宮紀宝道路」起工式を新宮市立総合体育館で開催

国土交通省、和歌山・三重の両県知事、新宮市長、紀宝町長のほか、一般参加者を含め約450名が出席。式典では、主催者あいさつや来賓祝辞などが行われたあと、鉄入れと万歳三唱が行われ、工事の安全と今後のさらなる事業進捗、早期完成を祈念しました。

●防災フォーラムin紀宝をまなびの郷で開催

●浅里食品加工場(なれ寿し加工場)が完成

●鮎田地区タイムライン(風水害)を策定

●鮎田地区タイムライン(風水害)を策定

●鮎田地区タイムライン(風水害)を策定

●鮎田地区タイムライン(風水害)を策定

●鮎田地区タイムライン(風水害)を策定

●鮎田地区タイムライン(風水害)を策定

Kiho 20年の軌跡

平成30年

令和3年



滝の前で
キャンプができると
県内外で人気!



● 飛雪の滝キャンプ場が
リニューアルオープン(浅里)
コテージをはじめ、売店や研修室、
多目的スペースなどを備えた、直
売・集客交流施設としてオープン。
多彩なアクティビティや里山を体感
できるキャンプ場として、多くの方
に利用いただいています。

● 「紀南地域在宅医療介護
連携支援センターあいくる」
を紀南病院に設置



● うどの幼稚園の
大規模改修工事が完了
建築から42年が経過した、
うどの幼稚園の大改修が完了。
内外壁の塗装、床、天井、トイレ
の改修や、照明器具のLED
化などを実施しました。きれい
になった園舎に、園児たちも
大はしゃぎでした。

● 第4期
西田町政が始動

平成30年

2018

● 9つの介護事業所と「災害
時における老人福祉施設の
利用に関する協定」、「災害
時における福祉避難所の開
設等に関する協定」を締結

● 紀南環境衛生
施設事務組合
に太地町が加入



● 町オリジナルナンバー
プレートを交付開始
● 放課後等デイサービス事業所
「放デイはたる」を開設(井内)

3月



● 鵜殿小学校の大規模改修工事が完了
建築から37年が経過した、鵜殿小学校
の大改修が完了。内外壁、屋上の防水
対策、照明器具のLED化などを実施し
ました。玄関には木材が使用され、明る
木の温かみを感じる校舎となりました。

- 一般国道42号「紀宝熊野道路」「新宮
道路」新規事業化決定により、近畿
自動車道紀勢線全線事業化が決定
- 京城跡(史跡)を紀宝町指定文化財に指定
- 各避難所への公衆無線LAN(Wi-Fi)
環境整備工事が完了
- 高岡地区タイムライン(風水害)を策定
- 防災行政無線デジタル化及び
紀宝町新防災情報システムが完成

5月

● 新元号「令和」
へ改元

4月

● 「健康づくり推進課」を
「みらい健康課」とし、
事務所を保健センター
から役場庁舎へ移転
「産業建設課」を「産業
振興課」と「基盤整備
課」の2つの課に分割

9月

● 紀宝町小・中学校の
空調設備整備事業が完了

3月

● 三重県内の医療機関で、6歳
年度末までの児童(未就学
児)を対象とした福祉医療費
の窓口無料化を実施

10月

● 和歌山県新宮市内の医療機
関で、社会保険加入者(未
就学児)を対象とした福祉医
療費の窓口無料化を実施

3月

● 成川地区高台の整備が完了
海拔約47mの位置に、約7,000㎡の広場が完
成。防災備蓄倉庫や耐震性の貯水槽を備
え、一時避難場所や仮設住宅も建てられる防
災対策用地としての環境が整いました。

3月

● 鵜殿運動場の大規模改修工事が完了



10月

● 関西電力株式会社
と「災害時における
災害復旧用オー
プンスペースに関する
協定」を締結

12月

● 新型コロナウイルス感
染症(COVID-19)が
中国湖北省武漢市を
中心に発生

令和2年

1月

● 成川地区
タイムライン
(風水害)を策定

2月

- ヤフー株式会社と「災害に係る情報発信等
に関する協定」を締結
- 新型コロナウイルス対応のため
紀宝町新型コロナウイルス対策本部を設置
- 紀宝町版新型コロナウイルス感染症対策
本部会議を開催(令和4年4月まで67回開催)
- 惣田橋が架橋(鵜殿)



5月

● 「広報きほう」が全国広報
コンクール広報紙部門
(町村の部)で特選
(総務大臣賞)を受賞

9月

● 「熊野川河口大橋」記念碑
除幕式をまなびの郷で開催
熊野川河口大橋は紀宝町に
防災・医療・地域連携強化と
観光・産業振興など多大な恩
恵をもたらす「命の道」です。
この架橋を記念した記念碑を
建立し、関係者や来賓による
除幕式を行いました。記念碑
には完成までの歩み
が刻まれています。

● コンビニ収納サービスを開始
(浄化槽使用料)



3月

- 紀宝町地震津波タイムラインを策定
- 紀宝町防災行政無線(移動系)
デジタル化更新工事が完了
- 紀宝町版新型コロナウイルス感染症
対応タイムラインを策定し運用

3月

● 紀宝町福祉センター・
紀宝町神内福祉センター
大規模改修工事が完了
老朽化が進んでいた両施設の長寿
命化を目的に改修を実施。外装・
内装の修繕、各設備の改修とともに
利便性が向上しました。さらなる
福祉活動や健康づくりなど、福祉
増進の要となる施設となりました。

12月

● 有限会社岡村および
生活協同組合コー
プみえと「高齢者等見
守り活動協定」を締結

紀宝町制施行
15周年

1月

- 西日本電信電
話株式会社三重支
店と「特設公衆電話の
設備に関する協定」
を締結
- 紀宝町新型コロナウイルスワクチン
接種プロジェクトチームを設置

4月

● 尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、紀宝町の
東紀州5市町で可燃ごみの広域処理を目指し、
一部事務組合「東紀州環境施設組合」を設立

● 保健センターを改修し、図書館と
子育て支援センターとの複合施設
「紀宝はぐくみの森」をオープン(神内)
1階の図書館には充実した児童コーナーに
加え、料理教室やギャラリーとしても活用
できるフリースペースを設置し、2階の子
育て支援センターにはファミリーサポ
ートセンターも併設しています。木の温
かみを感じる落ち着いた雰囲気の施設
で、子どもの健全な成長と地域活性化
に取り組んでいます。



● 両施設の連携が深まり、
よりよい子育て環境づくりに
つながっています

安全でおいしい
水の安定供給が
可能となりました



● 桐原地区営農飲雑用水
施設が完成

町内3か所目となる浄水場が完成。
桐原地区では、生活用水として山
水を利用していましたが、浄水場
ができたことで、各家庭で水道水
が利用できるようになりました。

11月

● 一般社団法人三重県
ドローン協会と「大規
模災害時における小型
無人機による情報収集
に関する協定」を締結

7月

● まなびの郷において
新型コロナワクチン
集団接種を開始

5月

● 有限会社岡村および
生活協同組合コー
プみえと「高齢者等見
守り活動協定」を締結

3月

● 西日本電信電
話株式会社三重支
店と「特設公衆電話の
設備に関する協定」
を締結

2月

● 紀宝町新型コロナウイルスワクチン
接種プロジェクトチームを設置

令和3年

2021

Kiho 20年の軌跡

令和4年

令和7年



タイムライン防災・全国ネットワーク国民会議 設立総会

●タイムライン防災・全国ネットワーク国民会議設立、西田町長が初代議長に就任
「タイムライン防災」の普及を目指す「タイムライン防災・全国ネットワーク国民会議」が発足し、全国で初めてタイムライン防災を導入した西田町長が初代議長に選ばれました。現在もタイムライン防災の全国的な普及と充実に取り組んでいます。

国の防災基本計画にも「タイムライン防災」が位置付けられました



※タイムライン防災…台風や大雨などの災害が起こる前に行政、住民、関係機関が取るべき行動をあらかじめ定めておく計画のこと。



7月

●一般国道42号「新宮紀宝道路」熊野川河口大橋連結を祝う会を新宮市丹鶴ホールで開催
三重県と和歌山県を結ぶ「熊野川河口大橋」が令和5年2月に連結したことを受け、連結を祝う会を開催。祝う会に先立ち体験学習会が行われ、町からは鶴殿小学校の児童が参加。津波避難訓練や橋梁点検などを体験しました。この道路は非常用階段とスロープが設置されており、緊急時の一時避難場所にも活用されます。

●新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ

5月

●一般社団法人三重県トラック協会紀南支部と「災害時における緊急物資輸送に関する協定」を締結

●相野谷診療所内に「紀宝町地域医療研修センター」を開設

10月

●「総務課防災対策室」から「防災対策課」に変更

4月

●株式会社キナンと「災害時におけるレンタル機材の提供に関する協定」を締結

6月

●鶴殿地区「家族と私の命を守るタイムライン」(地震・津波ルールブック)を策定

●紀南環境衛生施設事務組合で清浄苑火葬炉設備整備工事が完了(4炉から5炉に増設)

●新型コロナウイルスワクチン集団接種が終了

10月

●一般社団法人三重県水門・水環境施設協会と「災害発生時における調査及び災害応急復旧工事に関する協定」を締結

11月

●株式会社ゼンリンと「災害時における地図製品等の供給に関する協定」を締結

●和歌山県新宮市内の一部の医療機関で、国民健康保険加入者(未就学児)を対象とした福祉医療費の窓口無料化を実施

●明和工業株式会社と「災害時における物資供給に関する協定」を締結

12月

●鶴殿保育所を新築・移転
建築から40年が経過し、津波浸水予測区域にあった鶴殿保育所が、安全確保のため高台に移転。保護者や保育士などの意見も反映した設計で、木の温もりを感じる明るく開放的な園舎になりました。安全確保のほか防犯対策も充実させ、安心して子どもたちを預けられる環境が整いました。

●一般国道42号「紀宝熊野道路」中心杭打ち式を御浜町中央公民館で開催



令和5年

●矢渕中学校の大規模改修工事が完了

1月

●保育所・幼稚園の給食費を無償化

7月

●小・中学校の給食費を無償化

9月

2月

●第5期西田町政が始動

令和4年



●紀宝町子ども家庭センターをみらい健康課内に設置

●遊び場開放の実施場所を拡充(井田地区及び成川地区に加え、神内地区で実施)

4月

●三重県内の医療機関での福祉医療費の窓口無料化対象年齢を拡充(18歳年度末まで)

●和歌山県新宮市内の医療機関での社会保険加入者の福祉医療費の窓口無料化対象年齢を拡充(18歳年度末まで)

9月

●一般社団法人三重県LPガス協会と「LPガス対応備蓄機器の貸与に関する協定」を締結

8月

●紀宝町給食センター改修工事が完了(神内)

10月

●井田地区「家族と私の命を守るタイムライン」(地震・津波ルールブック)を策定

●三重県農業共済組合と「災害時の協力に関する協定」を締結

●空き家活用株式会社と「空き家等対策に関する事業連携協定」を締結

●式典に向けてさまざまな催しで盛り上がりました!



9月 地域活性化イベント



11月 フリーウォーキング



12月 提灯行列

紀宝町の発展に大きく関わる「命の道」ができました



●一般国道42号「新宮紀宝道路」開通式典をまなびの郷で開催
紀宝町と新宮市を結ぶ「新宮紀宝道路」が開通。三重県と和歌山県をつなぐ初の自動車専用道路で、地域にとって重要な役割を果たします。開通式典には約300人が集い、道路の完成を祝いました。

11月

●「きぼう健康ぶらざ」をオープン
旧鶴殿保育所を改修し、きぼう健康ぶらざをオープン。同施設内に、紀宝町訪問看護ステーション・総合健康相談窓口・移住定住サポートデスクを開設、地域医療研修センターを移設しました。

●大阪府岬町と「災害時相互応援協定」を締結
大規模災害時に、物資や人的支援を速やかに実施するための協定を結びました。この協定は、両町長が意気投合したことがきっかけで、視察や意見交換を経て実現。相互支援体制が強化され、いざという時の安全・安心の確保につながっています。

●西田健 紀宝町長が建設事業関係功労者として国土交通大臣表彰を受賞



大阪府岬町・三重県紀宝町 災害時相互応援協定調印式

●重層的支援体制整備事業を本格実施

4月

●鶴殿体育館の改修工事が完了

●障がい者グループホーム建設用地貸借(無償)に関する契約を締結

12月

●井田地区タイムライン(風水害)を策定

8月

●鶴殿1組・2組津波避難タワーが完成

●和歌山県新宮市内の医療機関での国民健康保険加入者の福祉医療費の窓口無料化対象年齢を拡充(18歳年度末まで)

10月

●成川地区「家族と私の命を守るタイムライン」(地震・津波ルールブック)を策定

●紀宝町南海トラフ地震臨時情報タイムラインを策定

10月

令和8年1月 紀宝町制施行20周年!!



令和6年

3月

●道の駅「紀宝町ウミガメ公園」防災拠点施設が完成
国土交通省と町が事業を進めてきた防災拠点が完成。大規模災害に備え、道路の復旧を行うための資機材の配備、救援・救助車両の活動拠点、防災タワーや備蓄倉庫の整備など、災害に強い道の駅として生まれ変わりました。



道の駅「紀宝町ウミガメ公園」防災拠点施設完成式典

この町が好き

ここに暮らす人々は、まちづくりを支える“宝の源”です。町民一人ひとりのストーリーに光をあてながら、町の誇りと愛着を再発見し、未来の希望へと紡いでいく——そんな町民のインタビューコーナーです。

自然を大切に、未来へとつなぎたい

私が住む神内の魅力は、なんといっても神内神社を中心とした、厳かで神秘的で自然豊かなところ。木々や虫たちと共存しながら、みんなでこの素晴らしい環境を守り、未来へ残していけたら…と思っています。今年出かけた町内の花火大会はとても綺麗で、初めて間近で見ることができ、忘れられない思い出になりました。

くすもと みき 楠本 美妃さん(神内)



紀宝町でつけた自然と人の温かさ

海あり山ありの大自然の中での子育てがこんなに最高だなんて、この町に引っ越して来るまで知りませんでした。転勤族で、はじめは友だちもおらず孤独だなぁと感じていましたが、町の皆さんがとても温かく、今ではすごく居心地の良い場所です。子育て支援も充実していて、まちづくりにも魅力を感じています。

あらか 荒木 ゆきさんご一家(鶯殿)

自然がくれる、穏やかな幸せ

四季の移ろいを感じながら、夫婦で毎日1時間ほど近所を散歩しています。スイセンや梅、桜、モクレン、サツキなどが咲き、季節ごとに花々を愛でるひとときは、お金には代えがたい幸せです。散歩中の夫婦の会話も大切な時間。この町の豊かな自然が、いつまでも大切に守られてほしいと願っています。

しみず まさあき 清水 正章さん(鶯殿)



人の温もりこそ、まちの宝

結婚を機に紀宝町に移り住みました。顔を合わせると自然にあいさつが交わされ、人の温もりにあふれた雰囲気こそが、私にとってこの町の宝物です。昨年、初めて子どもと訪れた「光の祭典 in 紀宝」では、イルミネーションを見て目を輝かせる姿が印象に残りました。日々の何気ない出来事の中に、この町で暮らす幸せを感じています。

くちもと かな 倉本 香菜さんご一家(鶯殿)

町の魅力を高める一人ひとりの行動

祖父は旧御船村の村長として、この地域の発展に尽くしてきました。その志を受け継ぎ、私も町の魅力を高める行動を続けています。若い頃からの献血は100回を迎え、臨床工学技士としての資格を活かし、特殊技能予備自衛官として災害時に備えた活動にも参加しています。小さな行動の積み重ねが、町の未来をつくる力になると信じています。

たがわ とおる 谷川 徹さん(成川)



人の温かさに包まれるまち、紀宝町

2023年に埼玉から移住しました。都会では出会えなかった景色に癒やされ、地域の人たちの程よい距離感と温かさに支えられ、紀宝に移住してよかったと感じています。現在は「きほう健康ぶらざ」の相談窓口で、自身の経験を活かして地域の方々の心に寄り添っています。誰もが暮らしやすいまちを願い、これからも活動を続けていきます。

ぬまさわ さちこ 沼澤 幸子さん(北松杖)



町民が選んだ!

まちの推し ランキング

広報紙やホームページ、公式LINEを通して募集した町民の皆さんの声をもとに、町の魅力をランキング形式で紹介いたします!

質問① お気に入りの観光スポットは?

第1位

道の駅「紀宝町ウミガメ公園」



第2位

飛雪の滝キャンプ場



第3位

大里自然プール



山からの水がひんやり心地いい!

番外編

こうのうらじんじや こやす みや しちり みはま くまのがわ むのびき たき ひらおい やくし 神内神社(子安の宮)、七里御浜、熊野川、布引の滝、平尾井薬師、大烏帽子山、横手地藏尊

質問② とっておきの町の特産品は?

第1位

みかん



第2位

マイヤーレモン



第3位

めはり寿し



おばあちゃんの味♡

まるかじりできちゃう! 優しい酸味

番外編

なれ寿し、飛雪米

質問③ 好きな町のイベントは?

第1位

紀宝みなとフェスティバル



港がにぎわって、町中が笑顔になる日

番外編

紀の宝みなと市、MANAVO LAND

第2位

紀宝町花火大会



海に映る花火に感動

第3位

光の祭典 in 紀宝



1 総合計画 めざす姿 自然と共生し、安全・安心で快適に暮らせるまちづくり

人と自然が ともに息づくまちを 未来へ

七里御浜のきらめく海岸線、熊野川の清らかな流れ、飛雪の滝に象徴される溪谷美。そして、町のシンボルでもあるウミガメの保護活動など、歴史的価値のある資源や豊かな自然に恵まれた、魅力あふれるまちです。

この恵まれた環境を大切に守りながら、町民一人ひとりが心から安心して暮らせるよう、「人の命が一番」を基本理念に、防災・減災対策を強化し、いざというときにも強いまちづくりに取り組んでいます。また、豊かな暮らしの実現に向けて、若者の定住促進や生活環境の充実を図り、地域で支え合いながら資源を大切に、環境にやさしい循環型社会の実現へと歩みを進めています。

自然に癒やされ、まちに愛され、未来が楽しみになる——ここにしかない「宝」が、紀宝町にはあります。

次世代につなぐ 恵まれた自然環境

七里御浜や飛雪の滝、熊野川など、紀宝町の自然は地域の誇りであり、貴重な観光資源です。レンタサイクルや自然体験プログラムなどの人気が高まる中、地域事業者などと連携しながら遊び場の充実や再訪を促す魅力発信に力を入れています。また、環境美化への意識啓発を図り、町民による清掃活動などの取り組みも支援しています。



ウミガメ保護監視員による海岸清掃とパトロール



井田川のホタル



飛雪の滝キャンプ場 滝ダッキー体験

生活の基盤となる道路網の整備

安全で快適な移動を確保するため、幹線道路や生活道路の整備・改良を計画的に進めています。老朽化した道路や橋梁の補修、歩道やガードレールの設置などにより、交通安全の向上を図ります。また、高速道路網との連携を強化し、広域交通の利便性向上や地域間交流の促進を目指します。さらに、災害時の緊急輸送路や避難ルートの確保にも配慮し、安心して暮らせる生活基盤の充実に努めます。



町道の整備



一般国道42号「新宮紀宝道路」(熊野川河口大橋)

備えて守る、 支え合う防災のまち

南海トラフ地震への備えとして、地域防災計画やタイムラインの整備を進めています。令和5年度には、全国初となる「地震・津波タイムライン」を住民と協力して作成し、「自分の命は自分で守る」「地域は自分たちで守る」という危機意識の醸成を図りました。今後も、多角的な取り組みを通じて、防災・減災対策を推進していきます。



地震・津波タイムラインの作成(防災ワークショップ)



鶴殿1組・2組津波避難タワー



小学校での防災学習会



町内各地区の防災訓練(井田)

だから、ずっと住み続けたい。

**みんながずっと
心も体も元気で
健やかに**

人口減少が加速する中、すでに団塊の世代は後期高齢者となり、少子高齢化は一層深刻化すると考えられています。こうした状況に対応するため、町民の健康づくりや疾病・介護予防を推進するとともに、介護や障がい、ひとり親家庭など、さまざまな立場の方々が安心して穏やかに暮らせるよう、福祉サービスの充実にも力を注いでいます。

子どもたちは町の「宝」です。安心して子どもを産み育てられる環境を整えるため、保育施設の整備や幼児教育の推進、放課後児童クラブの充実などを進め、地域全体で子どもたちの成長を見守り、支えています。

さらに、生活に不安を抱える方に対しては、各種支援情報を分かりやすく伝えることで、経済的な自立と安定した暮らしの実現を後押しします。住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、社会保障の充実にも取り組んでいきます。



**健康増進と安心の
子育て環境づくり**

保健活動推進員や「きぼう食の会」が健康増進や食生活の改善に取り組むとともに、各地区では自主活動グループによる介護予防活動が行われています。さらに、子育て世代包括支援センターを設置し、子育て支援センターと連携することで、相談・支援体制の充実を図り、安心して子育てできる環境づくりにも努めています。今後も人材育成を進めながら、活動を支援していきます。



小さなボールを使った健康運動教室



ファミリーサポートセンター事業

図書館と子育て支援センターの複合施設「紀宝はぐくみの森」



見守り、支え合いで築く共生社会

地域共生社会の実現に向け、高齢者の見守り活動や仲間づくり、生きがいつくりの機会をさらに充実させていきます。住み慣れた地域で生涯にわたり安心して暮らせるよう、地域包括ケア会議や相談支援体制を整備し、行政・社会福祉協議会・ボランティアが連携して支え合いを強化します。



高齢者地域見守り隊



地域包括ケア会議

地域医療の充実

だれもが安心して医療を受けられる体制の充実や地域医療を担う医療機関との連携を強化し、救急・在宅医療の体制を整備してきました。また、医師や看護師など医療従事者の確保・育成を推進し、住民の健康を支える基盤を強化しています。さらに、紀南病院など広域医療機関との連携を深め、地域全体で支え合う医療体制の確立を目指します。



町地域医療研修センター

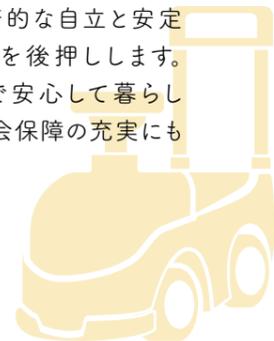
**相談支援強化と
多様な世帯への支援拡充**

少子化による人口減少が進む中、「子育て環境の充実」を町の重点課題として位置づけ、子育て支援センターにおける相談支援の強化や、経済的に困窮する世帯への支援に取り組んできました。地域団体との協力体制を築きながら、多子世帯やひとり親世帯への支援をさらに充実させ、保育ニーズに応じた体制整備を進めることで、地域全体で子育てを支える環境づくりを推進しています。



子育て支援センター

だから、安心して暮らせる。



3 総合計画 めざす姿 賑わいと活力あふれる産業・交流のまちづくり

育てる・働く・訪れる 地域の力を活かした雇用と産業

温暖な気候と豊かな水資源に恵まれた地域特性を活かし、米・柑橘類・野菜などの農作物の生産を推進しています。これらの特産品のPRや販売促進を図るため、町商工会を中心に勉強会を開催するなど、地域の活性化に向けた取り組みを進めています。

商工業分野では、既存企業の経営力強化を支援するとともに、企業誘致などを通じて町内における就業機会の創出を進めています。また、七里御浜や熊野川、御船島など、世界遺産に含まれる貴重な観光資源を有する紀宝町では、“自然と歴史の宝”ともいえるこれらの魅力を活かし、観光の振興を図っています。

雇用情勢は依然として厳しい状況が続いていますが、ハローワークや町商工会、紀南地域の他市町と連携し、就職相談会などを継続的に開催することで、町民の安定した暮らしを支えています。



取組 地元の産業を守り育てる

農業の担い手不足に対応するため、意欲ある農業者による農地集積や集落営農の支援、柑橘類などの販路拡大や品質向上に取り組んでいます。林業では、森林整備や林道・橋梁の点検、地元産材の活用促進を進めています。水産業では、漁場環境の改善や「浜の活力再生プラン」に基づく取り組みを通じて、漁業者の所得向上を図っています。



「森林経営管理制度」に基づく森林整備



「浜の活力再生プラン」に基づく水産振興

取組 地域の声を活かした にぎわいづくり

町商業活性化委員会では、地域振興と活性化を目的に、毎月第2土曜日に鞆殿港で「紀の宝みなと市」を開催しています。また、「紀宝町創業支援助成金事業」などにより創業支援にも取り組んでいます。

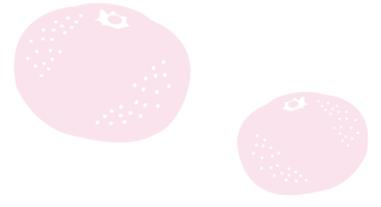


紀の宝みなと市

町ブランド米「飛雪米」



早場米の稲刈りをする米農家



なめこ

柑橘類は町の代表的な特産品



取組 観光資源の発掘とブランド力の向上

熊野古道や飛雪の滝キャンプ場などの観光資源を活かし、集客交流拠点や周遊ルートの整備に向けたモニターツアーを実施するなど、地域の魅力向上に努めています。

また、「着地型観光」を推進するため、多様な旅行ニーズに応じた情報や観光プログラムを発信するとともに、人材育成や来訪者の受入体制の強化、資源の保全にも継続して取り組んでいます。



道の駅 紀宝町ウミガメ公園

取組 暮らす・働く意欲を応援するきめ細やかなサポート

高齢化が進む中、移住・定住を促進するため、きぼう健康ぶらざ内に「移住定住サポートデスク」を設置し、移住相談や空き家調査などを行っています。

また、町商工会では、人材不足に悩む町内企業を支援するため合同就職説明会を開催し、関係機関とさらなる連携を深めながら、情報発信や雇用環境の改善に努めています。



移住定住サポートデスク



合同就職説明会

だから、町を訪れたくなる。

世代を超えてつながる学びと交流の場

子どもから高齢者まで、すべての世代が安心して暮らし、学び、楽しめる環境づくりを進めるため、幼児期からの基本的な生活習慣の育成や、学校教育における学力・体力の向上を通じて、次代を担う人材の育成に取り組んでいます。

また、教育活動や文化・芸術活動、スポーツ・レクリエーション活動など、世代を超えて参加できる場を広げることで、地域への愛着を育み、人と人とのつながりを深めながら、活力あるまちづくりを推進しています。

地域文化の振興においては、熊野古道などの観光資源を町の魅力を象徴する“宝”として大切に保存・継承するとともに、一人ひとりの人権が尊重される社会の実現に向けて、人権学習や啓発活動の充実にも力を入れています。これらの取り組みを通じて、地域の魅力を高め、町民が誇りを持って暮らせるまちを築いています。

取組 学校教育の充実

すべての小・中学校に「学校運営協議会」を設置し、地域の人材や施設を教育に活かしています。外部の視点を取り入れることで、より良い学校運営が可能となり、地域づくりにもつながっています。

また、少人数教育などきめ細かな指導を進めるとともに、学力調査の結果を分析し、授業改善に取り組んでいます。さらに、通学路の安全点検や放課後児童クラブ「きほっこ」の運営にも力を入れ、子どもたちが安心して学べる環境づくりを推進しています。



ALTによる英語授業



放課後児童クラブ「きほっこ」



ICT機器を活用した授業



町民運動会

井田ほうき踊り

平尾井踊り

取組 豊かな心を育む生涯学習

図書館では、読書活動を支援するだけでなく、地域住民が交流し、地域の課題解決を支援する情報拠点としての機能の充実にも取り組んでいます。また、年齢を問わず生涯にわたってスポーツを楽しめるよう、各種団体や総合型スポーツクラブが活動しています。さらに、青少年育成町民会議を中心に、健全な育成を目指した取り組みを進めるなど、多様な学習・活動機会に主体的に参加できる環境を整備しています。



MANAVO LAND

取組 歴史と文化を誇れるまちづくり

あらゆる人が文化芸術に親しみ、創作活動に参加できる環境づくりを進めています。町文化協会への支援や芸能発表会の開催、加盟団体への助成を行い、地域の文化活動を促進しています。また、室町時代に築かれたとされる「京城跡」などの文化財についても、関係機関と連携しながら保存・活用に向けた検討を進めています。今後も、各種文化団体への支援や文化財の整備・活用を継続し、住民の意見を反映した活用方法について協議を重ねていきます。



京城跡

取組 一人ひとりの人権が尊重されるまち

人権問題に対する正しい理解と知識を深めるため、人権週間に合わせた啓発活動をはじめ、講演会の開催やポスター展示、気軽に相談できる体制づくりに取り組んでいます。地域の各団体と連携しながら啓発活動を継続するとともに、「誰ひとり取り残さない」地域社会の実現を目指しています。



町内での人権啓発活動

だから、自分らしく成長できる。

5 総合計画 めざす姿 住民と行政の協働によるまちづくり

声を届けよう まちを育てよう

すべての地区において町民主体のコミュニティ活動が推進されるよう、町民の意識を高め、互いに協力し合える体制づくりを進めています。また、町民がまちづくりに参画できる環境整備にも力を入れており、パブリックコメントの活用や、審議会・委員会への町民代表の参加を促進することで、地域の声を反映した行政運営を目指しています。限られた行政資源は効率的・効果的かつ計画的に配分し、健全な行財政基盤を確立し、持続可能なまちづくりのために、安定した運営体制を築いています。

さらに、男女共同参画社会の形成に向け、家庭・地域・学校・職場・まちづくりなど、あらゆる場面で意識を高められるよう環境整備を進めています。誰もが自分らしく活躍できる社会は、まちの未来を支える“人”という宝を育てる土壌でもあります。これらの取り組みを通じて、町民一人ひとりが誇りを持ち、安心して暮らせるまちを築いています。

取組 地域の担い手を育てる実践の場

町民主体の支え合いによるまちづくりが求められる中、まなびの郷ボランティアによる陶芸教室やアロマワックスバー作りなどを実施しています。また、「紀宝町げんき塾」を設立し、地域活動の担い手の育成に取り組み、地域の活性化を図っています。さらに、地域活性化団体への補助や集会施設等の修繕も進めており、活気ある自治活動の展開が着実に進んでいます。



陶芸教室



紀宝町げんき塾（熊野川アクティビティ）



取組 広聴活動の充実

広報紙やスマホアプリ、ホームページを活用し、行政情報を継続的に発信しています。広報クイズによる意見募集に加え、インターネットを活用した意見収集や、町民の意識・意向を把握する手法についても検討を進めています。行政施策の策定や意思決定の過程に町民が参画することは、公正で透明な行政運営の実現に欠かせません。



「広報きほう」

取組 地域の声を活かしたまちづくり

限られた職員数の中で満足度の高いサービスを提供できるよう、職員間の情報共有や人事考課を行い、意識向上に努めています。町民にとって利用しやすい役場を目指し、コスト意識を持ちながら事務事業の効率化・簡素化、抜本的な見直しを進めています。



窓口業務

取組 垣根を越えた連携で、地域を活性化

行政区域を越えた広域的課題に対応するため、近隣市町村や関係自治体と連携し、介護・税務・観光などの事務処理を広域で実施しています。道路整備やクルーズ客船誘致、石川県中能登町や青森県藤崎町との垣根を越えた連携事業も推進し、産業振興や地域活性化を図っています。



青森県藤崎町との交流



石川県中能登町との交流

取組 もっと自分らしく参画の輪を広げよう

男女共同参画社会の実現に向けて、町では「第3次男女共同参画プラン」を策定し、関係機関や地域団体と連携しながら、相談支援体制の充実や職員研修などに取り組んでいます。これまでの情報提供に加え、町民向けの研修会などを通じて、誰もが自分らしく活躍できる社会づくりを進めています。



職員研修



地域と企業の交流事業として行った田植え

だから、みんなで町を育てたくなる。



大切に守り続けたい キラリ輝くまちの魅力



世界遺産
熊野参詣道
熊野川

熊野本宮大社から熊野速玉大社までの約34kmが、世界遺産に登録されています。中辺路を通り熊野三山を参詣する際には、舟で往復することが多く、「川の参詣道」として、貴重な文化遺産とされています。



世界遺産
熊野参詣道
七里御浜

かつて熊野速玉大社へ向かう参詣道として、19世紀後半まで利用されていました。弓なりに約18kmにわたって広がる景観は、熊野参詣道伊勢路随一の景勝地として親しまれています。



世界遺産
熊野三山
熊野速玉大社
御船島

熊野速玉大社の境内の一部とされるこの島は、毎年開催される例大祭「御船祭」の際に、諸手船・神幸船・早船が三度、この島を廻ります。



ふるさと資料館「みどりの里」

昔の暮らしを伝える民具や農具、埋蔵文化財、産業用具など約500点がテーマごとに展示されています。また、陶芸などを楽しめるふれあい体験コーナーのほか、茶道や生け花に利用できる和室、パネルギャラリーもあります。



こうのちじんじや
神内神社

自然の岩窟を御神体とし、境内の樹叢は県の天然記念物に指定されています。「子安の宮」として安産祈願で知られ、出産後には感謝の印に子どものよだれ掛けが奉納されています。



ひらおいやくし
平尾井薬師

11世紀、白河法皇の勅願により建立された薬師堂。薬師如来像を本尊とし、首から上の病にご利益があるとされています。参道には樹齢数百年の大木が並び、多くの参拝者が訪れています。



さんだんぼ
三反帆

自動車がなかった時代、熊野川の急流を越えて人や物を運んだ伝統的な川舟は、3枚の帆で風を受けて進む独特の構造が特徴。現在は「熊野川体感塾」による遊覧体験で川下りが楽しめます。



もろとぶね
諸手船とハリハリ踊り

熊野速玉大社の例大祭「御船祭」で見られる、全長13.4m・肩幅2.1mの大船。かつての捕鯨船を原型とするこの船は、県の有形民俗文化財に指定されています。巡行にあわせて女装した踊り手が掛け声とともに踊る「ハリハリ踊り」が披露され、伝統と活気がみられます。

文化財

脈々と紡がれてきた文化の息吹

神社やお堂などの歴史的建築物が点在し、自然の恵みとともに、貴重な文化財が今も息づいています。熊野水軍ゆかりの地としての歴史に加え、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の構成資産が3つも存在するなど、世界的にも価値のあるまちです。

特産品

豊かな風土と
人々の営みに育まれたかけがえのない産物

年間を通してさまざまな柑橘類が栽培されています。代表的なのは、温暖な気候と潮風に育まれた温州みかん。レモンとオレンジが自然交雑したマイヤーレモンは全国有数の生産量を誇り、料理やスイーツ、ドリンクなど幅広く活用され、人気を集めています。

また、昔ながらの製法で作られる干物や漬物などの伝統食も、地域に深く根付いています。



温州みかん

マイヤーレモン

めはり寿し

伊勢えび

なれ寿し

飛雪米

れんげ米

なめこ

さんま寿し

毎月第2土曜日
紀の宝みなと市



10月
紀宝みなとフェスティバル



12月~1月
光の祭典in紀宝



イベント

伝統と今が響き合う、まちの彩り

古くから脈々と受け継がれてきた伝統行事から、ステージイベントやマルシェなどの現代的な催しまで、季節ごとに多彩なイベントを開催し、まちににぎわいと交流をもたらしています。

こうした地域が一体となった取り組みによって、豊かな自然と人とのつながりを感じられる、魅力あふれるまちを形成しています。



8月
紀宝町花火大会



開かれた議会運営で町政を支える

紀宝町議会は、町民の選挙によって選ばれた定数11人の議員で構成され、条例の制定・改廃、予算の決定、決算の認定、重要な契約の締結など、町の意思を決定する役割を担う議決機関です。

議案の審議を行う「本会議」のほか、専門的かつ積極的に審査・調査を行う「委員会」も設置されており、町政の重要事項が話し合われる場として一般の方も傍聴することができます。

また、議会中継のインターネット配信や広報紙のコーナー「議会だより」など、町民に開かれた議会運営に努めています。



議会だより



定例会の様子



交流自治体 地域の絆でつながる 安心と未来

町では、災害時の支援体制や特産品の共同開発などを通じて、全国の自治体と連携を深めています。協定や交流で築かれた信頼と絆は、町の安全・安心な暮らしを支え、地域の魅力や可能性を広げる力になっています。



1 石川県 中能登町



姉妹町／災害時相互応援協定

平成24年11月に「災害時相互応援協定」を結び、緊急時には人員や物資の支援を行う体制を整えています。また、平成25年12月からは、姉妹町として地域間の絆を深めながら、防災力を高めています。

2 青森県 藤崎町



地域間連携「ローカルtoローカル 新・連携プロジェクト」

特産品の共同開発などを通じて交流を深めています。りんご・みかん・マイヤーレモンなどを活かした新たな魅力づくりに取り組み、地域の農業と食文化の可能性を広げています。

3 高知県 大豊町



水害タイムライン運用自治体連携協定

県内外の自治体と連携し、水害タイムラインの運用を通じ、事前の情報共有や避難行動の明確化を図ることで、災害発生時に迅速かつ的確な対応が可能な体制を整えています。こうした連携協定により、防災力の向上を図るとともに、自然豊かな地域の命と暮らしを守る、安全・安心なまちづくりを推進しています。

4 熊本県 球磨村



5 大阪府 岬町



災害時相互応援協定

緊急時の人員や物資の支援など、両町が協力し合う体制を整えています。豊かな自然に恵まれた地域同士が協力し合うことで、安全・安心な暮らしの確保につながっています。

紀宝町マップ



大里親水公園
大里自然プールの上流にある、自然を活かして整備された公園。春には満開の桜が水面に映えて訪れる人々の目を楽しませています。せせらぎに耳を傾けながら森林浴を楽しむことができます。

飛雪の滝
幅12m、高さ30mの美しい滝。滝のそばには、滝つぼでの水遊びやBBQが楽しめるキャンプ場と遊歩道が整備されており、自然を満喫できるスポットになっています。

道の駅 紀宝町ウミガメ公園
全国で唯一、ウミガメの水族館が併設された道の駅。本物のウミガメを見ることができ、触れ合えるイベントも人気です。地元の特産品や郷土料理が楽しめる食堂もあります。

未来に紡ぐ自然と歴史



町制施行20周年を迎えるにあたり、この20年の歩みを支えてくださった町民の皆さま、並びにこれまで町の発展にご尽力いただいたすべての関係者の皆さまに、心から感謝申し上げます。

紀宝町は、町制施行以来、「海・山・川の恵みに抱かれ、ともに輝き創造するまち」を将来像に掲げ、「人の命が一番」「子どもはまちの宝」「高齢者はまちの誇り」をスローガンに、自然と共に生き、支え合う温かみのあるまちづくりを進めてまいりました。

紀伊半島大水害や新型コロナウイルス感染症など、決して平たんな道のりではありませんでしたが、そのたびに町民の皆さまの温かいご協力と強い絆が、まちを支える大きな力となりました。

また、本地域の悲願であった一般国道42号「新宮紀宝道路」が開通し、医療・防災・産業・観光など、さまざまな分野でその効果を実感しています。

紀宝町だから、自然の恵みと人のぬくもりが息づいている。
紀宝町だから、困難なときも支え合い、前を向いて進める。
紀宝町だから、未来を担う子どもたちの笑顔が輝いている。

これからも本町が、笑顔と活力にあふれ、町民一人ひとりが「この町に生まれてよかった」「この町で暮らしてよかった」と心から思える明るい未来へと歩み続けることを願っております。

20周年の喜びを胸に、紀宝町だからできる新たな一歩を、ともに踏み出してまいりましょう。

紀宝町長 西田 健



A 京城跡
室町時代に築いたとされている、町指定文化財の城跡。敵の来襲に備え数々の工夫が凝らされており、当時としては数少ない石垣を用いた城壁も築かれていました。



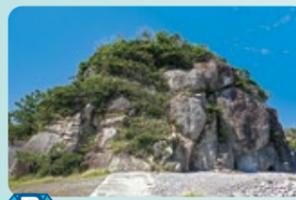
B 大烏帽子山
標高362mの低山ながら、展望の良い山として人気です。山頂からは七里御浜や熊野灘、山々のパノラマが楽しめ、別名「神内富士」とも呼ばれています。



C 井田観音
鎌倉時代の作といわれ、「厄落とし」の観音様として有名。海から現れたという不思議な話が伝えられています。戦前は厄年の男女が厄払いに訪れ賑わったそうです。



D 横手地藏尊
熊野古道（浜街道）沿いにある江戸時代から病氣平癒のご利益があると信仰されているお地藏様。地藏前の湧き水は霊水と伝えられています。



E 加持鼻王子権現跡
熊野古道伊勢路にあった、数少ない王子社跡の一つ。岩の形が印象的なスポット。王子社は津波で2度流され、今は井田上野口JRガード近くに祀られています。



F 子ノ泊山
標高907mを誇る、紀宝町の最高峰の山。南には熊野灘が広がり、北からは紀伊山地の山並みと、帯のように延びる熊野川を一望できます。



G 鶺鴒城址
南北朝時代から室町時代にかけて熊野水軍の鶺鴒氏が築いたとされる山城跡。町指定の史跡。今も曲輪や土塁などの遺構が残されています。



H 烏止野神社
鶺鴒にある神社で、境内背後の巨大な岩が御神体とされています。また、境内を囲む社叢には希少なミカドアゲハが生息し、町指定文化財として保護されています。



I 貴祢谷社
熊野三山より古い歴史を持つといわれる神社。熊野三神が祀られており、熊野の神々が新宮の神倉山から貴祢谷のある地に移り住んだのが始まりとされています。